

2015 年度事業報告(案)

1. 事業報告全般

1.1 全般

2013 年度に 420 万円にのぼる赤字を計上し、2014 年度は 73 万円の黒字となるも、累積赤字が 190 万円残ったが、今年度は当期 320 万円の黒字となり、累積赤字を解消することができた。これは事務局職員の削減と大幅な外注化によるところが大きい。この協会運営の改革と協会事業の強化にご尽力、ご協力下さった会員各位に御礼を申し上げる。

協会の主要事業である会誌刊行事業、出版事業、普及研修事業(講習会、シンポジウム、検索技術者検定を含む)をはじめ、全体的に充実した事業を推進することができた。3i 研究会を中心として、新たな会員が会のさまざまな事業に参加する流れができており、喜ばしいことである。

また会誌は、2015 年 10 月より「検索技術者検定問題解説シリーズ」の連載開始、2016 年 1 月より「インフォプロのための著作権入門」、「情報分析・解析ツール紹介」の連載開始により、昨年度の諮問委員会のご意見を反映しつつある。また「会誌経営委員会」の発足が 2016 年 3 月 10 日の理事会で決定され、会誌運営体制の強化への道筋が出来つつある。

しかし残念ながら会費収入、事業収入の減少はとどまる様子が見られない。会員拡大、会誌購読者拡大のためのダイレクト・メールも実施したが、十分な効果は上げていない。

本年度の主な実績は次の通りである。

- ・試験については、2014 年度から「検索技術者検定」として新しい制度となり、全国 7ヶ所の公開試験会場と 6ヶ所の個別試験会場で実施した。1, 2 級の受験者は増加したが、残念ながら 3 級の受験者が減少したため、全体の受験者数は減少し、課題を残した。

- ・2013 年度発足した 3i 研究会は、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) およびジー・サーチなど各機関の協力のもと、第 2 期の研究会が完了し、その成果は 2015 年 12 月に開催された INFOPRO 2015 シンポジウムで発表した他、会誌 2016 年 5 月号より 3 回にわたって論文が掲載される予定である。第 3 期の研究会は 2015 年 8 月に発足したが、東京 22 名 (3 グループ) のほか、今回初めて大阪 14 名 (2 グループ) が参加して活発な研究をおこなっている。その最終報告会は 2016 年 7 月に行われる予定である。

- ・会誌刊行事業については、前年に引き続き、会誌編集委員会の企画による特集テーマを核として、安定した定期発行を達成した。さらに前述のとおり、試験問題解説、著作権、情報分析・解析ツールの連載が開始された。2016 年 4 月より、会誌が J-STAGE に掲載されるので、当協会維持会員に対しては IP アドレスを登録、正会員・準会員・特別会員にはパスワードを配布した。なお会誌の過去分は 2016 年度中に掲載される予定である。

- ・一般刊行事業では、「情報検索の知識と技術 応用編」、「情報検索の知識と技術 基礎編」2 刷の図書を刊行した。

- ・研修事業については、研修委員会を中心に、西日本委員会およびパテントドキュメンテーション委

員会との連携により企画・推進を行い、会員の注目するセミナー、見学会を実施した。

・第12回情報プロフェッショナルシンポジウム (INFOPRO 2015) は、昨年に引き続き会場を JST 東京本部で 2015 年 12 月 10-11 日に実施した。特別講演、トーク&トークとも大変好評であったが、参加者数が減少して課題を残した。

・研究会としての OUG (4 分科会)、SIG (5 部会)については、それぞれの分科会、部会において活発な活動が行われた。

しかし正会員と会誌購読者の減少は引き続き進行しており、今後の運営は一層の厳しさが予想される。

1.2 2015 年度役員および担当

理事(東日本地区)

青柳英治	研修委員会 (正)
安藤聡子	シンポジウム実行委員会
長田孝治	標準化委員会、事業推進部会委員、運営部会委員
小田島互	事業推進部会委員、3i 研究会(正)、運営部会委員
小野寺夏生	会誌編集委員会
川村 剛	事業推進部会長、運営部会委員
阪上晃庸	PD 委員会
佐藤京子	運営部会委員
真銅 解子	3i 研究会(副)
鈴木博道	副会長、OUG・SIG、運営部会委員
丹 一信	出版委員会
時実象一	会長、専務理事、運営部会長、事業推進部会委員、著作権委員会 (正)
原田智子	試験実施委員会(正)
松下 茂	広報委員会
望月聖子	試験実施委員会(副)
吉井隆明	副会長、運営部会委員、事業推進部会委員、表彰者選考委員会、研修委員会 (副)

理事(西日本地区)

稲葉洋子	西日本委員会
谷川 淳	西日本委員会
北山阿梨	西日本委員会
永石弓子	西日本委員会

監事

廣谷映子	三澤一成
------	------

諮問委員(東日本地区)

池田 剛透 上村 順一 大谷 裕 小陳左和子 竹之内 禎 角田 裕之
 徳野 肇 中島律子 林 賢紀 林 和弘 藤井 信栄 藤島 嘉幸
 安平 進 吉野 敬子

諮問委員(西日本地区)

沖田 克夫 中江貴彦 藤田 美穂 持井 聡子 矢崎 美香 山田瑞穂

1.3 会員異動

種別	2014年度末	入会	退会	増減	2015年度末
維持会員	52	2	3	-1	51
特別会員	79	0	5	-5	74
正会員	970	57	131	-74	896
準会員	8	0	1	-1	7
合計	1,109	59	140	-81	1,028

1.4 会議開催状況

(1) 定時社員総会 ----- 1回

第58回定時社員総会および協会賞表彰式 : 2015年6月19日(金)

議題:

- ① 2014年度事業報告(案) および決算報告(案) (審議)
- ② 2015年度事業計画および予算(報告)
- ③ 2015~2016年度役員選挙
- ④ 第40回情報科学技術協会賞表彰

名称	表彰者
情報業務功労賞	クリスチャン・ガリンスキー氏、木村美実子氏
教育・訓練功労賞	小河邦雄氏、長澤洋氏
優秀機関賞	なし
研究発表賞	なし
協会事業功労賞	なし

また永年会員に石川徹也、小野寺夏生、諏訪秀策、内藤衛亮各氏を推挙した。

(2) 理事会 ----- 3回 (2015/6/25, 2016/3/10, 2016/5/13) 理事懇談会 1回 (2015/9/15)

電磁的決議 (2015/9/23, 2015/10/1)

(3) 諮問委員会----- 1回 (2016/2/9) (諮問事項: 本協会会誌のあり方について)

(4) 部会・委員会

委員会名	委員数	開催回数	委員会名	委員数	開催回数
運営部会	6	1	事業推進部会	14	1
会誌編集委員会	11	11	シンポジウム実行委員会	10	7
表彰者選考委員会	7	1	試験実施委員会	5	11
著作権委員会	7	1	研修委員会	6	2
西日本委員会	13	6	パテントドキュメンテーション委員会	6	3
出版委員会	4	1	標準化委員会	5	0
広報委員会	4	4			

2. 事業活動

2.1 会誌刊行事業

(1) 会誌編集委員会

2015年度も安定した刊行(毎月1日発行)を達成することができた。会誌は特集を中心とした編集方針を採っているが、今年度もインフォプロの関心領域から様々な話題のトピックを取り上げることができた。特集テーマの検討に際しては、図書館分野に偏らないことを意識し、当協会の事業と関連する「特許調査の現状と課題」(7月号)や「ISOと標準化」(8月号)を特集するなど、特集テーマのバランスを取ることができたと言える。

また、2014年度に引き続き協会の他の委員会と連携した特集も刊行した。研修委員会とのコラボレーション企画として「インフォプロと地域活性化」(5月号)を、そしてパテントドキュメンテーション委員会からは特集内容の企画検討、編集において全面的な協力を頂き、「特許調査の現状と課題」(7月号)を発行することができた。これらの連携企画はここ数年では定番となっており、読者に有益な情報を届けるためにも、この協力関係は継続したいと考えている。

【特集】

年	号	特集タイトル
2015	4月号	古典籍資料の最前線
2015	5月号	インフォプロと地域活性化
2015	6月号	学術情報の電子化
2015	7月号	特許調査の現状と課題
2015	8月号	ISOと標準化
2015	9月号	コレクション構築の現在
2015	10月号	データ分析によるサービス改善
2015	11月号	情報をわかりやすくするデザイン
2015	12月号	オープンデータ
2016	1月号	中東の学術情報
2016	2月号	図書館の価値 再考
2016	3月号	研究倫理

特集原稿及び連載以外の記事としては、会員からの投稿記事を4本、書評を4本掲載した。また以下の連載記事等が掲載された。

【コラム】

- ・INFOSTA Forum(継続連載中)
- ・検索技術者検定問題解説シリーズ(2015年10月号より)
- ・情報分析・解析ツール紹介(2016年1月号より)
- ・インフォプロのための著作権入門(2016年1月号より)

【委員会・会議開催実績】

回	開催日	主な議題	会場
1	2015-04-08	定例委員会	協会会議室
2	2015-05-13	定例委員会	協会会議室
3	2015-06-06	定例委員会・企画会議	アカデミー茗台
4	2015-07-01	定例委員会	協会会議室
5	2015-09-02	定例委員会	協会会議室
6	2015-10-07	定例委員会	協会会議室
7	2015-11-04	定例委員会	協会会議室
8	2015-12-05	定例委員会・企画会議	協会会議室
9	2016-01-06	定例委員会	協会会議室
10	2016-02-03	定例委員会	協会会議室
11	2016-03-02	定例委員会	協会会議室

この他、会誌編集委員会では会誌編集協力員(現在は3名)を置いており、電子メールベースでの委員会参加や企画会議参加などで協力いただいている。このように会長、会誌担当理事、各事業委員会等との情報共有・協議を進めることで、より多角的な視点による会誌運営と充実した内容の定期刊行が実現できるものと考えている。

(2) 事務局

協会事務局業務の見直しの一環で、2015年度のはじめから会誌編集作業の外注を行った。現在のところ、外注化による大きなトラブルや編集・発行作業の遅滞等は特にない。2015年10月号において、会誌表紙の特集名が誤植のまま印刷・配付されたが、ただちに再印刷・再発送の指示を出し、迅速に対応することができた。

2015年2月の諮問委員会の意見、その後の会誌編集委員会との議論を踏まえ、事務局が担当して連載記事を増加することとなった。

具体的には「検索技術者検定問題解説シリーズ」(2015年10月号～)、「情報分析・解析ツール紹介」(2016年1月号～)、「インフォプロのための著作権入門」(2016年1月号～)である。

さらに、会誌編集委員会との相談を通して、表紙への目次の印刷、読みやすい誌面作りの試行(連載「著作権入門」のみ組版を変更)、Twitterでの目次配信、関係者への正会員勧誘ダイレクト・メールの発送などを実施した。

(3) 会誌経営委員会の設置

会誌事業の今後の在り方を検討するため、会長及び会誌担当理事等が協議し、会誌経営委員会を2016年度に新設することを決定した。それに際して会誌編集委員会規定の見直しと会誌経営委員会規定の作成を行った。

2.2 一般刊行事業(出版委員会)

(1) 試験実施委員会との協力のもと、「情報検索の知識と技術 応用編(2級テキスト)(2015/5/22)、「情報検索の知識と技術 基礎編(2刷)」(3級テキスト)(2016/2/15)をそれぞれ出版した。

(2) 時実会長から、「コピペと捏造」執筆の申し出があり、委員会にて検討ののち、了承された。現在、著者と内容等について、検討を重ねている段階である。

(3) 出版物を一般書店の店頭で販売する手段について検討を行い、出版社等に聞き取り調査を行った。

委員会開催日

回	開催日	主な議題	会場
1	2015-07-28	当面の出版活動について	協会

2.3 普及研修事業

2.3.1 研修会・セミナー（研修委員会）

2015年度に行ったセミナーおよび見学会は下表の通り。

(研修事業全体把握のため、研修委員会企画分、西日本委員会企画分、パテントドキュメンテーション委員会企画分をまとめて一覧した)

NO	名称	会場	開催日	企画	参加者数
1	(株)日立製作所 DISデジタルミュージアム見学会	東京	2015/4/7	研修	9
2	印刷博物館見学会	東京	2015/6/19	研修	12
3	検索技術者検定3級試験対策セミナー	大阪	2015/9/5	西日本、研修	12
4	検索技術者検定3級試験対策セミナー	東京	2015/9/5	西日本、研修	21
5	サーチャー講座21	大阪	2015/9/12-13	西日本、研修	10
6	サーチャー講座21	東京	2015/9/26-27	西日本、研修	36
7	Stephen Adams氏 来日記念講演	大阪	2015/11/5	パテント	20
8	新日鐵住金(株) 君津製鐵所と技術開発本部図書館(TIC)見学会	東京	2015/10/6	研修	12
9	新春見学会（東京理科大学近代科学資料館・数学体験館）	東京	2016/1/15	研修	16

また、維持会員向け無料の勉強会（2016/5/25）を実施することとし、参加募集中である。

検索技術者検定対策セミナーは、東京、大阪の2地区で検索技術者検定2級および3級の受験対策セミナーを実施した。

一般セミナーは、「Stephen Adams氏 来日記念講演」を開催した。また、維持会員向けの勉強会を開催し、参加者に情報を提供すると共に、維持会員からの研修事業に対するニーズを吸収する機会とした。

恒例となっている新年会とのセット企画では、東京理科大学近代科学資料館・数学体験館において、新春見学会とセミナーを行い、多くの参加を得た。

委員会開催日

回	開催日	主な議題	会場
1	2015-07-02	セミナー、見学会の企画検討	協会会議室
2	2015-11-20	セミナー、見学会の企画検討	協会会議室

2.3.2 シンポジウム (シンポジウム実行委員会)

INFOPRO 2015 は、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) との共催により、2015 年 12 月 10 日～11 日の 2 日間、JST 東京本部で開催した。特別講演 (「ウェブ世論と著作権の新たなリスク」福井健策氏)、トーク&トーク (「ビッグデータの広がりとインフォプロ向け活用の実際」モデレーター: 林和弘氏 (NISTEP)、パネリスト: 中村 健史氏 (エルゼビア・ジャパン)、阿部博史氏 (NHK)、鈴木賢治氏 (プラスアルファ・コンサルティング))、および一般発表 26 件、3i 研究会発表 3 件など、充実した内容となり、下記のと通りの参加者があった。より幅広い範囲からの発表を期待して、初めてポスター形式での一般発表である「ポスターセッション」の募集を実施し、8 件の発表があった。また、今回も情報関連企業・機関の協力を得て、展示コーナーでのポスター展示とプロダクト・レビューを開催した。

参加者数

	種別	分類	人数
A	シンポジウム	有料	111
		招待	68
		計	179
B	交流会		41
C	3i資料		40 (冊)

委員会開催日

回	開催日	主な議題	会場
1	2015-04-16	開催日、開催場所の決定、他	科学技術振興機構
2	2015-06-04	特別講演の講師の選定、他	協会会議室
3	2015-07-09	トーク&トークのテーマ討議、他	協会会議室
4	2015-08-06	トーク&トークのテーマ討議、他	科学技術振興機構
5	2015-09-11	プログラム案作成、他	協会会議室
6	2015-10-22	予稿査読、他	協会会議室
7	2016-01-21	総括、他	協会会議室

2.3.3 検索技術者検定 (試験実施委員会)

(1) 2015 年度「検索技術者検定」実施結果

2015 年 11 月 22 日 (日) に検索技術者検定 3 級、2 級、1 級一次を実施、2016 年 2 月 14 日 (日) に 1 級の二次試験を実施した。受験者数と合格者数は、表のとおり。今回は試験問題に関するトラブルはなく順調に実施された。

試験種別	2015年度			2014年度		
	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率	受験者数 (名)	合格者数 (名)	合格率
3級	564	475	84%	613	517	84%
2級	159	70	44%	150	65	43%
1級	20	8	40%	10	7	70%
合計	743	553		773	589	

試験会場：

- ・1級一次・2級・3級：東京1、東京2、名古屋、京都、大阪、福岡、北海道（計7会場）
- ・1級二次：東京
- ・3級(個別会場)：九州女子大学、別府大学、昭和女子大学、皇學館大学、盛岡大学、宮城学院女子大学、

2014年度から新試験に移行して2回目の試験実施であった。今年度、1級受験者数は倍増したが、3級受験者数が8%減少したため、全体の受験者数は4%減となった。

(2) 試験実施委員会の活動

試験実施委員会は、受験案内の作成、実施マニュアルのチェック、テキストのチェック、試験問題と採点の管理、試験解答の公開(新規)、試験解説シリーズの編集(新規)、合格を祝う会に委員長と担当理事が参加し、合格者と交流を図った。

委員会開催日

回	開催日	主な議題	会場
136	2015-04-07	定例委員会	協会会議室
137	2015-05-11	定例委員会	協会会議室
138	2015-06-16	定例委員会	協会会議室
139	2015-07-13	定例委員会	協会会議室
140	2015-08-25	定例委員会	協会会議室
141	2015-10-06	定例委員会	協会会議室
142	2015-10-19	定例委員会	協会会議室
143	2015-12-17	定例委員会	協会会議室
144	2016-01-13	定例委員会	協会会議室
145	2016-01-26	定例委員会	協会会議室
146	2016-02-15	定例委員会	協会会議室

(3) 試験対応テキストの出版

新試験への移行に伴い、出版委員会と協力し、それに対応した2級テキストを2015年5月に、3級テキストの2刷を2016年2月にそれぞれ出版した。

(4) 広報活動

司書課程、情報課程の大学をはじめ、ビジネス支援図書館、公共図書館へのポスターと受験案内の送付を行った。さらに、パンフレットを作成し、関連イベントや関連機関などでの配布を実施した。

(5) 試験対策セミナー

受験者への対応として、テキストに基づく講習会を研修委員会、西日本委員会の企画で東京地区および大阪地区で開催し、当委員会はそれに協力した。昨年に引き続き、大学生向けに無料の3級対講座を実施し、9大学、計162名が受講した。詳細については「2.3.1 研修会・セミナー（研修委員会）」および西日本委員会の項を参照していただきたい。

(6) 「合格を祝う会」

「合格を祝う会」は、東京地区（2016/3/4）と大阪地区（2016/3/5）で開催、計31名の合格者が参加した。内訳は次のとおり。

	1級	2級	2,3級	3級	合計
東京	5	4	4	10	23
大阪	2	2	1	3	8
合計	7	6	5	13	31

(7) 試験問題の解答例公開

2014年度に引き続き、1級前半および2級後半の記述問題に対する公開解答例も上記機関誌に掲載した。検索技術者検定を受験したいと考える受験希望者が、この試験を受けやすい環境を整備する目的で、試験問題に対する解答例公開の推進を図っている。

(8) 問題解説シリーズ

検索技術者検定問題解説シリーズを、会誌に連載を開始した。第1回目は『情報の科学と技術』65巻10号(10月号)に掲載し、2回目以降は、65巻11号、66巻1号、66巻4号と第4回まで連載した。

(9) 外部発表

第17回図書館総合展（於 パシフィコ横浜、2015年11月10日～12日）において、検索技術者検定試験に関するポスター発表を行った。またその際に、協会のチラシを配布し、広報活動を行った。

2.4 パテントドキュメンテーション活動(PD委員会)

下記の事項について実施及び企画、検討を行った。

(1) 「Stephen Adams 氏来日記念講演」の開催

日時：2015年11月5日

場所：機会振興会館

講師：Stephen Adams 氏

(2) 2015 年会誌 (2015 年 7 月号) 特集「特許調査の現状と課題」を編集・発行した。執筆者は、下川公子、静野健一、矢野純一、北川道成、田中志帆里、沖砂緒理、の各氏である。

(3) 2016 年会誌・特集号 (2016 年 7 月号) の準備をおこなっている。

委員会開催日

回	開催日	主な議題	会場
1	2015-08-18	定例委員会	協会会議室
2	2015-09-08	定例委員会	協会会議室
3	2015-10-20	定例委員会	協会会議室

2.5 西日本委員会

(1) 委員会の開催(年 6 回)

西日本委員会は 13 名の委員で構成しており、主に西日本地区に拠点を置く会員に向けた講習会、見学会、会員交流会などを企画立案し、情報活動の支援サービスを行った。普及研修事業や見学会などの企画、実施計画、及びアンケート集計を含む実施報告・反省を中心に、円滑な事業運営をすべく、活発な意見交換を行った。

特に 2014 年度から福岡在住の委員も加わり、関西を中心とした開催にとどまらず、見学会は東海地方 (富士フィルム様) で開催した。

回	開催日	主な議題	会場
173	2015-04-10	定例委員会	大阪市立難波市民学習センター
174	2015-06-26	定例委員会	大阪市立総合生涯学習センター
175	2015-08-31	定例委員会	大阪市立生涯学習センター
176	2015-10-23	定例委員会	エル・おおさか
177	2015-12-18	定例委員会・じょいんと懇話会	大阪市中央公会堂
178	2016-02-15	定例委員会	エル・おおさか

(2) 普及研修事業

①講習会 3 件

(a) 「検索技術者検定 3 級」対策セミナー(1 日コース)

- ・開催日、場所：2015 年 9 月 5 日(土)、大阪産業創造館
- ・講師：森美由紀氏(大阪大谷大学非常勤講師)

(b) サーチャージャー講座 21：検索技術者検定 2 級対策(2 日間コース)

- ・開催日、場所：
 - 東京会場：2015 年 9 月 26 日(土)、27 日(日)、機械振興会館
 - 大阪会場：2015 年 9 月 12 日(土)、13 日(日)、大阪産業創造館
- ・講師：池田剛透氏(多摩大学)、岡紀子氏(佛教大学非常勤講師、西日本委員会委員)
田中邦英氏(近畿大学非常勤講師、西日本委員会委員)、
三村智子氏(D I C 株式会社、元西日本委員会委員)

(c) 大学生向け 3 級対策講座

- ・10月10日(土) 大手前大学 14:50~17:50(3時間) 受講者人数:19名
- ・10月17日(土) 佛教大学 12:50~14:50(2時間) 受講者人数:18名
- ・10月24日(土) 別府大学 13:00~16:00(3時間) 受講者人数:約30名
- ・10月31日(土) 近畿大学 13:00~15:00(2時間) 受講者人数:約15名

②見学会

「富士フィルム(株)足柄工場図書室&先進研究所見学会」

- ・開催日、場所:2015年2月26(金)、富士フィルム(株)足柄工場図書室&先進研究所
〒258-8577 神奈川県足柄上郡開成町牛島 577(先進研内)
富士フィルム株式会社(FUJIFILM Corporation)R&D 統括本部(開成)

③会員交流活動

「情報と人をつなぐ じょいんと懇話会」

西日本地区の情報検索能力試験合格者有志の会「インフォ・スペシャリスト交流会(I S - F o r u m)」との共催、アート・ドキュメンテーション学会、記録管理学会、情報活動研究会(I N F O M A T E S)、情報知識学会関西西部会後援により、会員・非会員を問わず情報活動に関心の高い人達の交流会を実施した。

- ・開催日、場所:2015年12月18日(金)、大阪府中央公会堂
- ・話題提供者:黒田由加氏(株式会社東芝デザインセンター)
- ・テーマ:「聞く人にも、製作する人にもやさしい録音図書作成環境を目指して」

④2015年度検索技術者検定「合格を祝う会」

- ・開催日、場所:2015年3月5日(土)、大阪科学技術センタービル

⑤「情報活動研究会(I N F O M A T E S)」の活動支援

情報活動に興味を抱く人材が相互に研鑽する研究会の活動を支援。

⑥INFOPRO シンポジウムでのポスター展示を実施した。

(3) 試験会場運営支援

京都会場(佛教大学)

3. その他委員会活動

3.1 表彰者選考委員会

2016年4月11日に開催、第41回「情報科学技術協会賞」各賞の受賞候補選考を行い、次の通り推薦した。

- ・情報業務功労賞 三澤一成氏
- ・教育・訓練功労賞 田窪直規氏
- ・協会事業功労賞 津山重雄氏
- ・名誉会員 固武龍雄氏 太田泰弘氏

3.2 著作権活動(著作権委員会)

委員会開催は1回のみで、2013年10月29日委員会決定の運営内規を再検討の上で一部改訂し、「同内規の改廃を理事会で行う」と附則に明記した。パブリックコメント対応や文部科学省など

からの意見聴取に対する過去の行き違いなどを踏まえた配慮である。また、委員会の議事録を部外秘として理事宛にメール報告することと明記しており、パブリックコメント対応や意見表明に理事会の事前承認が時間的に間に合わない場合の備えが目的で有ることも併せて理事会に対して報告した。

委員会開催日

回	開催日	主な議題	会場
1	2015-10-29	著作権委員会運営内規の改訂。委員の再確認と交代などに関する検討。会誌編集への協力などの報告連絡。その他	協会会議室

3.3 広報活動（広報委員会）

2014年8月より新たなメンバーで委員会活動を活発化しており、委員長1名、委員3名、担当理事1名で活動中である。2015年度は、2014年度に引き続いて INFOSTA の紹介と新入会員獲得のためにリーフレットをシンポジウムや図書館系のセミナーで配布した（医学情報サービス研究大会、日本看護図書館協会第48回研究会、薬学図書館協議会研究集会、(株)サンメディアのユーザー会など）。また Twitter での広報については、発信内容について検討することにした。

さらにホームページについては、トップページの構成案をまとめたが、まず現在のページの不具合や問題点の修正を先行する方が良いという結論に至った。これについては、各委員会の協力が不可欠である。ホームページ全体の改修についても検討し構成案もできているが、再構築作業のための予算立てが必要となっている。

委員会開催日

回	開催日	主な議題	会場
1	2015-05-19	Webサイト、Twitter、メルマガ、協会冊子、リーフレット配布	協会会議室
2	2015-08-31	リーフレット配布状況、Webサイト、メルマガ、Twitter、新年会	協会会議室
3	2015-11-25	リーフレット、Webサイト、Twitter、新年会	協会会議室
4	2016-01-19	新年会反省、リーフレット、Webサイト、Twitter	協会会議室

3.4 標準化活動（標準化委員会）

標準化委員会は、本年度は JIS の定期見直しがなかったため委員会を開催しなかったが以下の活動をおこなった。

(1) ISO/TC46 国内委員会に委員を派遣した。また ISO/TC37 国内委員会に当協会所属の会員が委員として参加した。また協会内に設置されている国内事務局へのサポートを行った。

(2) 当協会が国内事務局を行っている ISO/TC37 総会が 2015 年 6 月 21 日から 1 週間、松江で開催されサポートを行った。参加者はおおよそ国外 80 名、国内 20 名で、県や松江市の多大な協力もあって各国の参加者から非常な感謝をうけた。

(3) 本年度は当協会が作成した JIS 規格の定期見直しはなかった。

(4) 情報の科学と技術 2015年8月号で「ISOと標準化」特集があり宮澤委員他が執筆した。

(5) ISO/TC37ならびにISO/TC46国内委員会を紹介するホームページを作成し協会のホームページで公開している。

4. 部会・研究会活動

4.1 日本オンライン情報検索ユーザー会 (OUG)

多くの分科会では年間を通して主査を中心とする例会を定期的で開催したが、全般的に会員の減少傾向は続いており、2007年のピークから20%以上収入減となっている。例会の開催回数や参加者数も同様の傾向が見られている。

本年度より例会の開催予定は事務局が把握している範囲でホームページの「INFOSTA カレンダー」に掲載されるようになった。例会スケジュールなどを早めに案内するなどして、新規会員の勧誘や参加者の増加策を講じてきてはいるが、反面、新規入会者の情報がきちんと伝達されないという様な不手際も発生し課題が残されている。各分科会の個別活動は、以下の通り。

4.1.1 化学分科会 (主査:鈴木理加氏。5回開催)

①例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
346	2015-05-12	著作権に関する勉強会	協会会議室	4
347	2015-06-16	著作権に関する勉強会	協会会議室	4
348	2015-08-04	J-PlatPat を使ってみる	協会会議室	4
349	2015-10-13	日化辞RDFデータの公開と化合物情報の統合	協会会議室	5
350	2016-02-22	2015年度検索技術者検定 試験問題(2級前半)を解く	協会会議室	3

②検索技術者検定 試験問題2級、1級前半の解答例をホームページより公開。

<http://www.infosta.or.jp/kagaku/>

4.1.2 ライフサイエンス分科会（主査:西内 史氏 9回開催）

①例会開催報告

回	開催日	種別	テーマ	会場	参加者
1	2015-04-16	講演	学術雑誌の諸問題：高額雑誌に対抗して日本の学術雑誌を世界に普及させる必要性とその方法	文京シビックセンター	12
2	2015-05-21	講演	(1) コクラン・コラボレーション、同日本支部の最近の活動状況 (2) コクラン・システマティックレビューとその見方	文京シビックセンター	16
3	2015-06-18	演習	(1) 検索例題 医薬品について、各国での販売状況を調べる (2) リンク集の更新、有用サイトの共有	日本医薬情報センター	13
4	2015-07-16	紹介	STN新プラットフォームと医薬系データベース	化学情報協会	19
5	2015-09-17	紹介	JAPIC 医薬品情報総合検索システム：PharmaCrossとは	日本医薬情報センター	19
6	2015-10-15	発表	EMBASE、PubMed(MEDLINE)、医中誌Web等を用いたシステマティックレビューの検索方法についての検討とその報告	文京シビックセンター	16
7	2015-11-19	紹介	(1) J-STAGE活用のすすめ ～コンテンツ拡大の取り組みと機能のご紹介～ (2) 医学用語シソーラス第8版改訂概要	文京シビックセンター	19
8	2016-01-21	紹介	JDREAMIIIのエンハンス情報および新複写サービスのご紹介 コラボリー (COLABORY)	文京シビックセンター	14
9	2016-02-18	紹介	「リンクリゾルバー-SFX」「ドキュメントデリバリーサービスReprints Desk」「文献管理/論文作成支援ソフトウェアEndNote」の紹介	文京シビックセンター	16

4.1.3 インターネット/ビジネス分科会（主査:渡邊 晃氏 1回開催）

①例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
1	2015-09-15	J-GLOBALを利用してキーワードと等価な分野に関する情報を収集する方法の検討	協会会議室	2

4.1.4 特許分科会（主査:森長 薫 氏 11回開催）

①例会開催報告

回	開催日	種別	テーマ	会場	参加者
378	2015-04-10	討議	平成27年度の活動方針と全体討論会	文京シビックセンター	12
379	2015-05-08	講演	サーチャーの役割と評価	文京シビックセンター	19
380	2015-06-12	講演 演習	(1) 特許調査クラウドビジネスに関して (2) 検索批評演習：特開2013-7185号	文京シビックセンター	17
381	2015-07-10	講演	TRIZワークショップ	文京シビックセンター	13
382	2015-09-11	講演	プロダクト・バイ・プロセス・クレームに関する最高裁判決の意味するところとその特許無効資料調査への影響	文京シビックセンター	22
383	2015-10-16 ～17	演習	無効資料調査演習	リフレッツ勝浦(ヴィラ勝浦)	10
384	2015-11-13	講演	報告書作成の勘所	文京シビックセンター	18
385	2015-12-11	講演	J-GLOBALの活用と今後の開発計画	文京シビックセンター	19
386	2016-01-22	講演	プレサーチインタビュー	文京シビックセンター	20
387	2016-02-12	演習	「検索批評演習：特許4897065号(発明の名称：植物栽培用照明装置)の【請求項1】の特許無効資料調査」	文京シビックセンター	10
388	2016-03-11	講演	Orbitcomに関するご講演	文京シビックセンター	15

4.2 専門部会（SIG）

特定の分野または専門技術に関心を持つ会員が自由に参加し研さんを積む場として以下の5つのグループがそれぞれ自主的に年間の活動テーマを企画して活動した。いずれの部会でも新たなメンバーの加入が無いことを悩みの種として抱えており、年度末で解散となる部会もあったことは残念な結果である。

4.2.1 技術ジャーナル部会(会員企業:12社。コアパーソン:持ち回り。6回開催)

部会は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。

① 例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
1	2015-05-22	技報(特に掲載原稿) 質向上のための施策	文京シビックセンター	13
2	2015-07-31	技報発行後のトラブル対応 技報編集者に求められる資質とスキル、技報編集者の育成	文京シビックセンター	11
3	2015-09-25	査読・校正の効率化 内規について	文京シビックセンター	10
4	2015-11-27	論文中の図版の取り扱いについて 定常送付分以外の冊子の活用・保管の状況	NEC関西ビル	14
5	2016-01-29	語句説明や注釈の付け方など掲載基準・編集方法について 参考文献の書き方について	文京シビックセンター	10
6	2016-03-25	社内広報部門との連携(社内情報の共有、戦略的広報活動) 技報編集者のモチベーションアップの取り組み 表彰制度について	IHI横浜事業所	17

4.2.2 パテントドクメンテーション部会(会員:6名 コアパーソン:桐山 勉氏 毎月開催)

① 例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
1	2015-04-21	(1) 2015年の研究テーマ討論 (2) トピックス話題の提供	協会会議室	4
2	2015-05-19	(1) 2015年の研究テーマ討論 (2) トピックス話題の提供	協会会議室	5
3	2015-06-23	(1) VALUNEX社のデモ (2) 2015年の研究テーマ討論 (3) トピックス話題の提供	協会会議室	5
4	2015-07-21	(1) 引用被引用DBのデモ説明 (2) 2015年の研究テーマ討論 (3) トピックス話題の提供	協会会議室	6
5	2015-08-25	(1) 2015年の研究テーマ中間報告 (2) トピックス話題の提供	協会会議室	6
6	2015-09-29	(1) INFOPRO2015発表研究テーマの進捗報告 (2) トピックス話題の紹介 (3) 秋の研修会実施(今年は宿泊なし)	TANAKAホールディングス	5
7	2015-10-20	(1) 発表用3テーマの進捗状況報告 (2) トピックス話題の提供	協会会議室	5
8	2015-11-24	(1) 発表用3テーマの進捗状況報告 (2) トピックス話題の提供	協会会議室	4
9	2015-12-15	(1) トピックス紹介 (2) INFOPRO2015の発表を終えて(意見交換)	協会会議室	5
10	2016-01-12	(1) 2016年の「年頭の想い」自由討議 (2) トピックス紹介 (3) その他自由討議	協会会議室	6
11	2016-02-16	(1) World Patent Information誌の注目記事 (2) 有効活用したWeb-EX-meetingの経験紹介 (3) IPI-ConfEx2016発表資料の紹介	協会会議室	3
12	2016-03-28	(1) WPI専門誌の注目記事の紹介 (2) IPI-ConfEx2016の出張報告 (3) トピックス紹介	協会会議室	5

① INFOPRO2015において、今年も1件の発表を行った。

・【A22】4つの観点からの特許情報分析手法の研究

—Boolean 検索、テキストマイニング 検索、俯瞰可視化 NMA および引用被引用 NWA の複合検索—
(今まで13年間連続して部会活動の成果を報告、発表継続期間の記録を更新中)

② 協会のホームページに組み込まれたパテントドクメンテーション部会のホームページにて、活動状況を(毎年複数回更新して)継続公開した。

③ 大阪工業大学の SNS にパテントドクメンテーション部会だけの非公開電子部会を継続開催し、毎月の部会活動に対する活性化補完の手段とした。

④ 外国専門誌による勉強：

・World Patent Information 専門誌のトピックス記事を使い、記事紹介輪講会を行った。

輪講会がメンバーの研鑽に役立っている。コアパーソンがWPI 専門誌の Editorial Advisory Board に2014年10月から就任したので、勉強会がしやすくなった。

⑤ 特別研修会を2015年9月29日(宿泊なし)にDinnerクルーズ船にて実施した。

その際に、INFOPRO2015の発表の進め方について自由討議した。

⑥ 外部知的財産団体への協力；INFOSTA-PD委員会に実行委員会1名参加

(会誌 情報の科学と技術 65(7)に、「IPI-ConfEX2015 および IPI-Award 受賞式 に参加して」を報告。)

⑦ メンバー間のトピックス情報交換

米国 PIUG2015、EMW2015、EPOPIC2015、PIAC2015 in China、 IPI-ConfEX2016 などの関連詳細情報をメンバー間で交換。これらのうち、米国 PIUG2015 に参加しプレゼン発表を行い、IPI-ConfEX2016 にも参加して一般プレゼンをしてきた。それらを当 PDG 部会にても詳細に報告した。

その他、国内の色々な勉強会でメンバーが参加しているものの相互紹介など。

⑧ プロバイダーデモ勉強会の実施と限定期間の試行研究

・ Ambercite 社の引用被引用 NWA-DB のデモを 7 月に行い、2016 年 3 月末まで無料試行で研究した。VALUENEX 社のデモを 6 月に行い、断続的な限定期間で無料試行の研究ができた。

4.2.3 分類/シソーラス/Indexing部会 (コアパーソン:山崎久道氏 11 回開催)

① 例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
1	2015-04-17	UDCのLCSH変換についての作業の課題と今後の方法	文京シビックセンター	11
2	2015-05-15	UDCのLCSH変換についての作業の課題と今後の方法	文京シビックセンター	9
3	2015-06-19	JICSTシソーラスの開発経緯など草創期のシソーラス事情	文京シビックセンター	11
4	2015-07-17	(1) 「極地研UDC分類・件名付与データ」についての解説と討論 (2) UDCを利用した主題検索に関わる論文の紹介	文京シビックセンター	11
5	2015-09-18	JSTシソーラスの最近の動向についての説明	文京シビックセンター	12
6	2015-10-16	MeSHの最新動向について	協会会議室	9
7	2015-11-20	「UDC-LCSH変換作業」の取りまとめ状況について	協会会議室	15
8	2015-12-18	「UDC-LCSH変換作業」の取りまとめ状況について	協会会議室	10
9	2016-01-29	「UDC-LCSH変換作業」の取りまとめ状況について	協会会議室	12
10	2016-02-19	UDCセミナー2015 (リスボンにて開催) 報告	文京シビックセンター	13
11	2016-03-18	UDCからLCSHへの自動変換について	文京シビックセンター	12

① 今年度は、「UDC から LCSH への変換」と「シソーラスの最新動向」の 2 点を軸に、活動を行った。

② 「UDC から LCSH への変換」については、もともと所蔵資料に UDC を付与している専門図書館として、利用者からの「言葉によるアクセス」を保証するものとして、LCSH の自動付与可能性について、様々な観点から検討と議論を行った。

③ 「シソーラスの最新動向」については、JST シソーラスと MeSH について、最近の動向を専門家にレビューしていただき、質疑応答を行った。さらに、JST シソーラスの前身である JICST シソーラス制定時の状況について、お話しを伺った。

④ それ以外に、コアパースンが参加した 2015UDC セミナー(リスボンにて開催)の状況について、報告が行われた。

4.2.4 Webサイト研究会 (会員:5名。コアパーソン:真銅解子氏。毎月開催)

月一回の会合を開き、以下のような活動を行った。ここ2年間唯一の常時参加メンバーが次年度の退会を申し出たため、2015年度末をもって当SIGは解散した。

(1) Webサーバ環境とWebページ作成の研究

(2) その他情報交換、問題解決等

回	開催日	テーマ	会場	参加者
1	2015-04-22	Webサイトを作る	協会会議室	2
2	2015-05-27	Webサイトを作る	協会会議室	2
3	2015-06-24	Webサイトを作る	協会会議室	3
4	2015-08-19	Webサイトを作る	協会会議室	3
5	2015-09-16	Webサイトを作る	協会会議室	3
6	2015-10-14	Webサイトを作る	協会会議室	1
7	2015-11-18	Webサイトを作る	協会会議室	3
8	2015-12-16	Webサイトを作る	協会会議室	2
9	2016-01-13	懇親会	メトロエム北海道	7
10	2016-02-17	Webサイトを作る	協会会議室	2
11	2016-03-23	Webサイトを作る	協会会議室	2

4.2.5 ターミノロジー部会(部会員:9名 コアパーソン:太田泰弘氏 7回開催)

設立の趣旨:情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実際に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004年5月に設立した。原則として隔月開催であるが、2015年度は7回実施した。

(1) 例会開催報告

回	開催日	テーマ	会場	参加者
68	2015-04-24	(1)「翻訳シンポジウム」開催計画 (2)「ターミノロジー基本用語集」の作成	協会会議室	7
69	2015-06-05	(1)「シンポジウム・翻訳の品質管理」開催準備 (2)「ターミノロジー基本用語集」の作成	協会会議室	7
70	2015-07-24	「ターミノロジー基本用語集」の作成	協会会議室	8
71	2015-09-11	(1)ISO/TC37 Plenary meeting (松江)開催報告 (2)「ターミノロジー基本用語集」の作成	協会会議室	7
72	2015-12-04	「言葉の変化と辞書:生まれた言語、消える言語 講師:倉島節尚氏	協会会議室	8
73	2016-01-22	「ターミノロジー基本用語集」の作成	協会会議室	7
74	2016-03-25	「用語・言語資源の標準化動向と人工知能」講師: 石崎 俊氏	文京シビック センター	11

4.3 3i 研究会 (会員:36 名 (東京 22 名、大阪 14 名))

3i 研究会は、会員自身の調査・解析スキルの向上と情報の新しい活用方法の獲得を目指し、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) との共催により、2013 年 8 月に活動を開始し、現在は第 3 期の活動を行っている。第 3 期では初めて大阪の会員を募集した。研究会会員は協会の会員及び非会員 (要会費) を問わない。その結果第 3 期の会員は、企業、大学等から東京 22 名、大阪 14 名の参加となっている。

(1) 研究会開催実績

第 2 期開催日

東京 (22 名)

回	開催日	テーマ	会場
9	2015-04-16	研究会	科学技術振興機構
10	2015-05-21	研究会	科学技術振興機構
11	2015-06-18	最終報告会	科学技術振興機構

第 3 期開催日

東京

回	開催日	テーマ	会場
1	2015-08-20	キックオフ	科学技術振興機構
2	2015-09-17	研究会	科学技術振興機構
3	2015-10-15	研究会	科学技術振興機構
4	2015-11-19	研究会	科学技術振興機構
5	2015-12-15	研究会	科学技術振興機構
6	2016-01-28	研究会	科学技術振興機構
7	2016-02-18	中間報告会	科学技術振興機構
8	2016-03-17	研究会	科学技術振興機構

大阪

回	開催日	テーマ	会場
1	2015-08-25	キックオフ	大阪工業大学
2	2015-09-15	研究会	大阪工業大学
3	2015-10-13	研究会	ネットス
4	2015-11-17	研究会	大阪工業大学
5	2015-12-08	研究会	ネットス
6	2016-01-26	研究会	大阪工業大学
7	2016-02-16	中間報告会	東洋紡
8	2016-03-15	研究会	大阪工業大学

(2) 第 2 期研究成果の発表

- ・最終報告会(2015 年 6 月)

- ・インフォプロ発表(2015年12月)
- ・情報の科学と技術に論文掲載準備中
 - Aグループ：2016年5月号
 - Bグループ：2016年6月号
 - Cグループ：2016年7月号

(3) 第3期活動の概要

① 第3期研究会募集ガイダンス（東京 2015/7/16、大阪 2015/7/13）申込み締切（2015/8/1）

② 第1回企画会議（2015/8/6）

③ 研究会の開催期間と頻度

- ・2015年8月～2016年6月（月1回開催）

④ 研究体制と活動

・研究アドバイザー1名、東京が3グループ（A～C）、大阪が2グループで構成され、各グループにリーダーを置き、それぞれ研究テーマに沿った活動を行っている。本年度よりアドバイザーには、Landon IP GK シニアディレクター（日本事業統括部長）野崎篤志氏に依頼している。月1回の研究会では、グループリーダー会議、グループ討議、全体討議が行なわれ、参加メンバー間の情報交換およびグループ間の情報共有化を図っている。また、2016年2月の研究会では、外部専門家にもご参加いただき、研究成果の中間報告会を行った。また、2016年7月に最終報告会を予定している。

【研究テーマ】

東京：

- Aグループ：2020年東京オリンピックに向けた Made in JAPAN 商品企画の提案
- Bグループ：高知県の特性を活かした観光政策を検討し、地域の活性化案を提案する
- Cグループ：老人のためのイノベーション

大阪：

- Aグループ：ロボット用センサーを例にした営業マンのための営業促進資料の提案
- Bグループ：シャンプー開発を例とした、次世代技術の予測

⑤調査・分析ツール

- ・特許、文献、ビジネス情報等のデータベース検索および分析ツールは、数社の提供会社の協力を得て利用可能となっている。

5. 調査・受託事業

5.1 ISO/TC37 及び ISO/TC46 国内委員会業務

国際標準化機構（ISO）の「情報とドキュメンテーション」（TC46）及び「専門用語及び他の言語、情報内容の資源」（TC37）に関する国内委員会業務を、2013年度より担当した。TC37、TC46は、共に（株）三菱総合研究所からの委託により実施した。

(1) ISO/TC37 国内委員会

本委員会(石崎俊委員長)の下に、SC1(専門用語作成の原則と手法)、SC2(用語辞書編纂方法)、SC3(用語、情報、内容の管理システム)、SC4(言語資源マネジメント)、SC5(翻訳、通訳及び関連技術)の5つのSC国内委員会を置き、総会(2015年6月、松江)への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票(30件)等を実施した。

本年度は、①文書コンテンツ標準化新規提案の準備、②制限言語の基本原則に関する国際標準の新規提案の準備、③制限言語の応用分野における国際標準の新規提案の準備を実施した。

回	開催日	会議名	会場	出席者数
1	2015-05-08	第1回本委員会	文京シビックセンター	21
2	2015-10-15	第2回本委員会	文京シビックセンター	20
3	2016-02-03	第3回本委員会	文京シビックホール	13

※長年の懸案であった TC37 総会の日本開催を 2015-06-21 から 1 週間、くにびきメッセ(松江市)で実施し、おおよそ国外 80 人国内 20 人の参加があった。

(2) ISO/TC46 国内委員会

本委員会(菅野育子委員長)の下に、SC4(技術的相互運用性)、SC8(品質-統計及び性能評価)、SC9(識別と記述)、SC11(アーカイブズ/記録管理)の4つのSC国内委員会を置き、総会(2015年5月、北京)への委員派遣、国際電子投票案件の審議・投票(37件)等を実施した。

日本からの①「国際図書館資料識別子に関する国際標準」の提案が SC9 で受理され、②「デジタルアーカイブ利活用のための国際標準」の新規提案の準備を実施した。

回	開催日	会議名	会場	出席者数
1	2015-07-06	第1回本委員会	協会会議室	13
2	2015-07-13	SC9委員会	協会会議室	12
3	2015-07-16	SC4委員会	協会会議室	9
4	2015-07-28	SC11委員会	協会会議室	8
5	2015-08-03	SC8委員会	協会会議室	7
6	2015-12-17	第2回本委員会	協会会議室	13
7	2015-12-21	SC9委員会	協会会議室	10
8	2016-01-13	SC4委員会	協会会議室	11
9	2016-01-22	SC11委員会	協会会議室	9
10	2016-01-25	SC8委員会	協会会議室	9

5.2 その他の受託調査業務

(1) 国立研究開発法人科学技術振興機構より、「調査業務年度末報告書作成のための現況動向調査、及び報告書作成業務」を受託し、作成・納品した。

(2) 文部科学省より「海外における図書館職員の人材育成に関する調査」を受託し、製作・納品した。

6. 関連団体との連携

(1) 会員としての加入

- ・一般財団法人機械振興協会協賛会員（継続）
- ・国立研究開発法人科学技術振興機構賛助会員（継続）
- ・東京商工会議所賛助会員（継続）
- ・公益社団法人小石川法人会（継続）

(2) 他団体との共催

- ・情報プロフェッショナルシンポジウム（INFOPRO 2015）を例年通り国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）との共催で開催した。

(3) 他団体から後援を受けたもの

- ・情報プロフェッショナルシンポジウム（INFOPRO 2015）に対して専門図書館協議会、日本医学図書館協会、日本情報経済社会推進協会、日本図書館協会、国立国会図書館から後援を受けた。

(4) 他団体に後援、協賛したもの

- ・平成 25 年度専門図書館協議会全国研究集会(専門図書館協議会) (2015/6/22-23)
- ・特許検索技術大会 2013((独) 工業所有権情報・研修館) (2015/9/5)
- ・INFOMATES 研究会 (2015/4/24)
- ・知財情報フォーラム (IPI-Forum) (2016/3/16)
- ・TP&D フォーラム 2014 (TP&D フォーラム実行委員会) (2015/8/29)
- ・ビジネス支援図書館推進協議会情報ナビゲーター交流会 (2015/6/13)
- ・学術情報 XML 協議会 JATS-Con Asia 国際会議 (2015/10/19)
- ・デジタル情報記録管理協会第 2 回特別講演会 (2016/1/10)
- ・日本図書館研究会情報組織化研究グループ東アジア地域における書誌コントロールの動向に関する国際フォーラム (2016/1/9)

これらについては、会誌に広告を掲載する他、投稿があれば開催報告を会誌に掲載している。また当協会のビラ配布も適宜依頼している。

7. 事務局

7.1 全般

昨年度末に契約社員を雇止めとしたので、専務理事（非常勤）、事務局長、正職員 1 名、アルバイト 2 名の体制で各種活動をおこなった。会費・購読料請求、総会資料の発送、会誌編集（一部）、試験実施（一部）の作業を外注し、常駐職員の減少を補った。

会費の請求、総会資料の発送においてトラブルがあり、総会開催の延期をやむなくされたが、会員の協力により乗り切ることができた。また会誌 10 月号の表紙の特集名が誤植のまま印刷・配付されたが、直ちに再印刷・再送をおこない、購読者からの苦情はほとんどなかった。

経費節減と事務の省力化については、昨年度の弁当支給の廃止に続き、交通費の支給方法の改訂を実施した。

7.2 会誌発行業務

昭和情報プロセス（株）に会誌編集業務を委託したが、おおむね順調に進んでいる。

2016年より新規に開始した連載企画（著作権、情報分析ツール）については事務局が担当して原稿を依頼、確認している。また一時休止状態にあった INFOSTA Forum の連載も再開した。従来から事務局が担当している、行事予定表、会告、協会だより、の記事作成のほか、会誌 2016 年 5 月号特集「第 12 回情報プロフェッショナルシンポジウム」の記事の依頼・確認もおこなっている。

2016 年 4 月からの J-STAGE 登載にあたり、維持会員にたいして IP アドレスの設定、正会員・準会員・特別会員へのパスワードの発行をおこなった。また毎号の搭載にあたっては、昭和情報プロセスと協力して内容と書誌事項のチェックをおこなっている。

会誌広告の募集も重要な業務であるが、一部の定期出稿社以外の新規開拓が不十分である。また維持会員は無料で出稿できるが、その勧誘も不十分であった。

7.3 刊行事業

出版委員会、試験実施委員会と協力して、検定試験テキスト、その他の出版物の出版業務をおこなった。出版物の販売は（株）毎日学術フォーラムに委託すると同時にアマゾンにも出店した。

7.4 会員・購読者業務

（株）毎日学術フォーラムに請求・督促業務を委託し、入金データを会計システムに入力している。

会員・購読者増強のため、図書館雑誌に広告を出稿した（2015/8-2015/12）。

会員増加、会誌購読者増加のため以下のダイレクト・メール・キャンペーンを実施した。

		実施日付	件数	注
正会員募集		2015/11/20	1379	10名入会
		2016/1/18	1279	2名入会
購読者勧誘	公共図書館向け	2016/1/27	337	会誌を同封
	大学図書館向け	2016/2/9	490	会誌を同封

また会費滞納の会員 97 名に対して電話で督促を試みた。うち 20 名から入金があった。また 4 名は支払を約束。なお支払者のうち 4 名は退会する。滞納分を支払わずに退会するとの会員が 2 名。残り 71 名は電話に出ないか現在の連絡先が不明。

7.5 検定試験実施

試験実施委員会と協力して、検索技術者検定を実施するため、以下の活動をおこなった。

- (1) 試験に関する広報宣伝（大学・公共図書館へのダイレクト・メール、会誌広告、ホームページの作成、ポスターの作成）
- (2) 受験申込受付のサイトの構築と受験料入金管理
- (3) 受験票の発送
- (4) 試験監督（東京 1、大阪は、（株）全国試験運営センターに委託、その他は直営）
- (5) 答案の収集と三級試験の採点
- (6) 合格者への通知

7.6 シンポジウム実施

シンポジウム実施委員会および国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と協力しシンポジウムを実施した。具体的には以下の活動をおこなった。

- (1) 参加票と請求書の発送（(株) ディック・アルファに外注）（申込システムは JST が運営）
- (2) 広告とプロダクト・レビューの依頼
- (3) プログラムの作成
- (4) 予稿集の作成
- (5) 当日の運営

前年度は、経費節減のために当日の運営の外注を中止した結果、混乱を招き、JST に大変迷惑をかけたが、今回は運営の外注を復活した結果、大過なく実施できた。

7.7 各種研修事業

各種研修の受付をウェブに移行したため、省力化が図れ、かつ参加者情報の収集が容易になった。研修会等については、原則当日の受付業務をおこなった。

7.8 研究活動の支援

日本オンライン情報検索ユーザー会（OUG）、専門部会（SIG）の会場予約、当日支援、各種連絡などの支援をおこなった。本年度より例会の開催予定は事務局が把握している範囲でホームページの「INFOSTA カレンダー」に掲載している。また OUG/SIG の予算消化状況も四半期ごとに連絡している。3i 研究会については委託契約による事務支援により、業務の遂行が極めて順調となった。

3i 研究会については、委託契約による事務担当者を配置し、研究会の運営をサポートした。

7.9 理事会・総会等の支援

理事会、総会、諮問委員会、運営部会などの開催の日程調整、会場予約、実施などを支援した。

7.10 各種委員会の支援

各種委員会開催を支援した。

7.11 受託活動事務

ISO など受託活動の契約事務、報告書作成、会議の準備、謝金・交通費・出張旅費の支給、経理処理、その他の事務活動をおこなった。

7.12 各種広報・拡販活動

メール・マガジンは毎月 10 日前後に発行してきたが、J-STAGE への会誌登載に伴い、毎月 1 日に会誌目次号を発行開始した。また昭和情報プロセス（株）により、会誌目次のツイッターも発行している。試験、シンポジウム、研修会などの当協会の行事、各委員会の開催、OUG/SIG/3i 研究会の開催予定は INFOSTA カレンダーに掲載している。

7.13 事務職員の担当

事務局長 光富 健一 総括、ISO 関連受託事業、会誌編集委員会
担当 鈴木 吉之 各種委員会、INFOPRO シンポジウムの運営、検索技術者検定の試験実施、

メルマガ発行、ホームページ維持管理
担当 木村かな子 経理
担当 廣田みどり 会誌編集管理

会員管理、購読者管理、書籍販売事務 (株) 毎日学術フォーラムに委託
会誌編集事務 昭和情報プロセス (株) に委託
シンポジウム当日運営 (株) ディック・アルファに委託
試験会場運営 一部 (株) 全国試験運営センターに委託